

# 秀歌三十首十今年の収穫

駒田晶子

千人に千のマスクが買われゆき二千の耳をゴ  
ムで引つ張る 十月号・佐佐木幸綱

ああ五月草木の芽立ちささやさや耳に集めて  
庭の草ひく 福光 繁子

流離さびいて吉備の山中に倒れしか石川不二子さ  
ん女儼げんであった 十一月・晋樹 隆彦

デイゴの花ちらほらと咲きくれなぬをけふの  
心にまぶしてゆけり 十二月号・佐藤モニカ

禁足地となりたる東京うつくしく二重の虹が  
日每あらはる 岸並千珠子

半日ほどわが顔をおほひぬし布を水にひたせ  
り皮膚のごとくに 一月号・横山未来子

赤とんぼ蝗せみ少なくなりし田の刈られてのぼほ  
ん薄き日の射す 木島 泉

汀とは光の坩堝くわくあらあらと青北鳴りて海あを

くする 峰尾 碧

酒むろん水を愛しし二人なり溝渠ほりちりのみづ溪川たにがわ  
のみづ 二月号・伊藤 一彦

なだらかなくぼみは冬の陽を浴びて今だけか  
ある母のこのひら 門田 祥子

食糧を求めて並ぶ人は皆小さな声で「Thank  
you」と言う 伊東 泰子

一万首作りて誰かがいいという歌一首でもあ  
れば 本望 三月号・久松 洋一

生きすぎた生きすぎたとぞ繰り返す母の言葉  
が低く響きぬ 田中 拓也

母の自尊心あり 高山 邦男

暗闇に同じ光を望みつつ映画で暮れる  
二〇二〇年 佐佐木定綱

生まれたる三七〇〇グラムの子にぎやかに泣

き声立てている 五月号・佐佐木頼綱

かなしみの上にさびしさ降る雪の白き心に聞  
く除夜の鐘 野見山鈴子

ウムラウトは常に寄り添ひそのやうな人があ  
たかもしれぬ我にも 松元 雅子

十年だ十年だと言う声高し何かを成し遂げ得  
たるごとくに 六月号・河野 千絵

忍耐の底が抜ければがらんどろ夕への鴉馬鹿  
げた笑ひ 七月号・塩川 郁子

子としての終の対面 生れしより母の在らざ  
る日は無かりしを 田中 薫

ミャンマーの春祈りつつ花吹雪舞ふ町に居て  
平和に暮らす 澤田 安子

桜湯の花弁しづかに開く昼あ生れし赤児の動画  
に見入る 吉藤 純子

病衣着て点滴ポールにつながれて花嫁のよう